



中国管区教化センター

創設十五周年を迎えて

統監 長岡徹宗

「桜花ちりし梢に蝉ないて

菊の枯枝に雪ぞ降りたる」

という悲鎮和尚の歌があります。

波乱万丈の昭和時代もアッという間に

すぎ去って、「内平にして外成る」

の平成己年の春を迎えました。

たまたま、当管区教化センターでは、

創設十五周年記念行事を企画実行する年

でもあり、まさに己年脱皮飛躍の年

を迎えたわけであり、私も統監就任以来、

十年目を迎えるようとしており、

全国教化センター統監仲間では、

いつのまにか最古参になっておりました。

何時も思うことですが、昭和五十

五年二月のある日、突然宗務庁教化

部より電話があつて「中国管区教化

センター統監をやってくれないか」

とのことでした。あまりにも唐突な

電話に当惑しながら、思わず口をつ

いてでた言葉は、「教化センターとは、

何んですか」でした。というの

も、これまで教化センターの名称さ

え聞いたこともなく、赤恥をかいて

しまいました。そして二月十八日天

寧寺にある事務所に初出勤いたしました。

時、恰も次年度行事計画立案の時

期とて、私は私なりに初仕事として

やりたいことも少くありませんでし

た。これをやってはどうか？ こう

して見たら？ と提案すると、かえ

ってくる返事は「それは宗制違反で

す」「そんな予算はありません」。

全く何をしてよいのやら、なすすべ

もなく杲然と退屈な一日をすごす日

が続きました。

「石の上にも三年」と申しますが、

本庁内局役職員・老師方の、物心両

面に亘る温い御教導と御支援の実が

ようやく結び、真に教化部の地方出

先機関としての使命を完う出来る体

制がととのい、又管区内に於ては、

管区長、各宗議会議員、各宗務所役

職員、総合企画委員、管区内寺院住

職諸老師方々の御芳情に援けられて、

どうやら「中国管区教化センター」

の名称くらいは、知っていただけの

ようになつたのではないかと、自負

しているところであります。

こうしたことをふまえての十五周

年記念行事を企画いたしました。

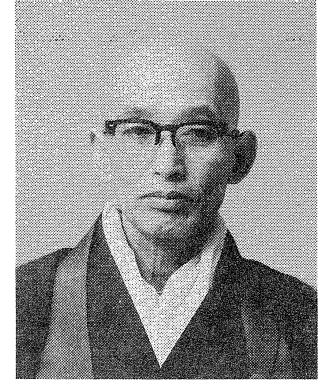
《発行所》
曹洞宗中国管区教化センター
〒722 尾道市東土堂町17-29
TEL 0848-25-2855

《印刷所》
印刷ショップ・イトウ

目次	
●ミニ禅を聞く会	4
●領収書の折り	5
●洋上セミナー	10
●婦人会研修会	11
●集中伝道	13

- 一、全管区内報恩集中伝道
五月九日～十八日。各宗務所管内各二会場。但し地元広島管内を除く。
- 一、第五回親子ゼンインサマーセミナー
日時、七月二五日～二七日
場所、萩市 楽天地
講師、講話 ひろさちや先生
ゲーム 渡辺法子先生
人形劇団 ザ・ダンマ その他
- 一、祝賀式典と記念講演会
十月二三日～二四日
於 福山駅前キャスルホテル
一、その他詳細別記。
平成元年己年に当り、脚下照顧による脱皮と、布施の精神に基き一層の研鑽を、お誓いし、御協賛を頂き御法愛を賜りますよう、伏してお願ひ申し上げます。

管区長就任御挨拶



島根県第一宗務所長
長久寺住職
樋谷 豊隆

去る昭和六十三年十二月十二日、
順番ということで沢 真教老師より
事務の引継ぎをうけ中国管区管区長
としての管長就任の任命を頂いた。
たまたま平成元年は中国管区教化
センター開設十五周年記念の年に当
り祝賀行事が行われる年になりました。
このめでたい年に管区長として
参加出来ることは後顧の勝縁であ
り十五年に及ぶセンターの布教行政
えの多大の御尽力に依る賜と謹んで
敬意を表し深く感謝いたします。

此の時に当り管区長就任の感想を
書くようにとのことなので少し愚見
を呈します。愚僧が昭和七年二十才
の青二才で首先住職した時、先師口
宜されて「尊公は今日からは若くて
も一ヶ寺の住職今日からの長い人生
は山あり谷あり紆余曲節あることと

思い今日次の一句を餞けにする」と
一句を口宜して頂いた。その一句と
は「時処位」と云うことであつた。
その時諸事にかまけて深く心にも止
めず、聞き置く程度であつた。
その後大戦に出征して七年、歳月
が過ぎ飯還した時先師は己に遷化し
て亡く、此の年になって本師の口宜
が耳底に強く「ヨミガエリ」おそま
きながら現在は「座右の銘」として
いる。

次第ながら、島根第一宗務所の若き
職員諸師の大きな強い力にささえら
れ、管内各宗務所長老師方と教化セ
ンター統監老師外職員諸師のあつい
御法愛御協力に依り先師の口宜を守
り、つゝがなく任期を務めたものと
と念願してやみません。
私は若い時太閤秀吉公の伝記を読
んだことを思い出します。

太閤は一生を通じて「時処位」に
生き抜かれた大偉人と思われれます。
「足がる」の時は日本一の「足がる」
になること、「土」の時には日本一
の「土」になること、其時其時の処
位に全力をつくすついに「天下人
」となられた。私達も残る人生を「時
処位」に徹した人生を過し度いもの
と念願して稿を終ります。

テレホン法話設置寺院

- 岡山県宗務所 〇八五六・(3) 二八〇
- 笠岡市 威徳寺
- 広島県宗務所 〇八四六・(4) 四〇七〇
- 大崎町 光禪寺
- 三原市 松寿寺 〇八四八・(6) 六〇四九
- 山口県宗務所 〇八三九・(7) 三七三七
- 山口市 禅昌寺 〇八三二・(5) 七七一〇
- 萩市 仏教団 〇八三二・(5) 七七一〇
- 島根県宗務所 〇八五二・(2) 〇五〇五
- 松江市 竜覚寺 〇八五二・(2) 〇五〇五
- 安来市 松源寺 〇八五二・(3) 〇八六八
- 鳥取県宗務所 〇八五二・(3) 〇八六八
- 泊村 長清寺 〇八五三・(4) 三三〇一
- 郡家町 大樹寺 〇八五八・(7) 〇五五六
- 境港市 大祥寺 〇八五九・(4) 四五六六
- 鳥取市 森福寺 〇八五九・(4) 四五六六

目覚めればもう東京…高速バス運行

三原・尾道・府中・福山→東京(新宿)
19:15 19:40 20:10 20:45 7:00

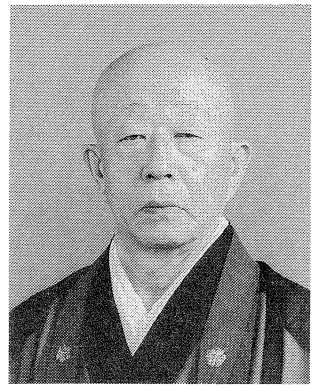
◆本山参拝の事ならおまかせ下さい。

〒726
府中市府川町八反田40-11
電話(0847)46-3377



中国トラベル

管区長辞任にあたりて



島根県第二宗務所長
宗泉寺住職
澤 真教

六十有余年の長い歴史を重ねた、
昭和の代も、一日で平成の元号に改
まりました。
昭和に生きた私にとっても、年々
歳々人同じからざる無常を痛感しま
す。しかし、平成元年の春はかわら
ず、花は歳々年々同じく咲いており
ます。

「人同じからず」と云う通り、此
の度、私は任期を終えて、管区長を
辞任し、先般、島根第一宗務所長老
師に引き継いだ次第でございます。
まことに浅学非才・修行未熟な私
が管区長の席を二年間にわたり、汚
しましたこと、深く省みてお詫び申
し上げます。

昭和六十一年十二月、宗務所長改
選に当り、管区長は島根第二より順
番と云うことになり、止むなく就任
した次第ですが、その際、管内所長
老師より「お互いに未知なる者同志
であり、順番廻りだから互いに協力
しましょう」と暖かく激励いただき
ました。
事実、二年間、微力なる私を相い
協力してご支援いただき、管区の宗
務行政を全うさせていただきました
ご法愛に対し、厚く感謝申し上げます
次第でございます。

この二年間、連絡協力を密にして、
センターと管区との共催事業として
多くの布教活動が実施され、大きな
成果を挙げ得たと喜ばしく存じてお
ります。特に、管内青少年教化員研
修会、布教講習会への青年僧侶の参
加が多くなり、布教実演等で見られ
る熱意に感激させられ、将来を頼も
しく力づけられました。

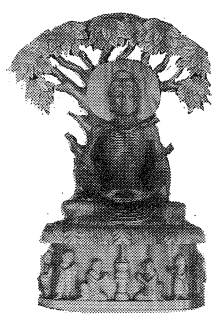
また、島根県隠岐島で実施しまし
た第四回洋上セミナー子供禅の集い
に、三十名を超す若手指導者の参加
協力は、これこそ、まことの和合僧
の実際と感激感謝の念に堪えません。
新たに年一回、開催することとな
った管内宗務所職員連絡協議会は
所長、庶務、教化、梅花各部毎に互
いの学習を広め、情報を交換し合あ
い、懇親と協力を深めたと信じてお
ります。

此処に、管区長辞任に当り、管内
一千ヶ寺寺院御老師に厚く感謝申し
上げますと共に、益々四衆接化の御
精進と御多幸を念じ奉ります。
合掌

“彫刻・修理のことならなんでも”



松山支店 〒790 愛媛県松山市和泉北1-5-20
TEL 0899-47-2013(代)
本 店 東京都東村山市富士見町3-2-17
TEL 0423-95-8505(代)
東京支店・盛岡支店・函館支店



苦業釈迦像
総丈2尺5寸

「良彦、きょうはどう言っておがんで来た……？」

祖母が問います。良彦は、わたしの本名です。子どものころ、朝晩、仏壇に手を合わせるようにと、祖母にきつく教えられていました。ただし、お願いごとをしてはいけな——と、祖母は言っていました。

それで、ときどき、審問されます。「ありがとうございます」と言っておがんでくれば、パスするのですが、ときには、わたしは、

「きょうの算数のテストで、百点をとらせてください。」

と、仏壇でほとけさまにお願いをしてしまいます。そうすると、祖母は、

「あかん、いまのお願いを取り消

します……と、もう一度、仏壇をおがんでこい！」

と命じます。わたしは、もう一度、仏壇に手を合わせに行かされるのです。

なぜ、ほとけさまにお願いごとをしてはいけないのか、祖母は教えてくれません。

「理由は知らん。わたしもおばあちゃんから教わった」

祖母はそういうだけでした。

＊ ＊ ＊

苦しい時の神頼み——ということばがあります。普段は神仏のことなど忘れていて、苦しくなれば、切羽詰まった時だけ神仏を思い出し、神仏の助けをこう。そんな人間の身勝手さを皮肉ったことばです。

たしかに、それでは身勝手です。そんな身勝手な要求に、神仏が応えてくれるでしょうか……。いささか怪しいと思います。

では、どうすればよいのでしょうか……？

苦しい時の神頼みがいけないのであれば、苦しむ時に神頼みすべきでしょうか……？

それもおかしいと思います。

いや、苦しむ時に神頼みをすれば、それは貧欲であって、むしろこちらのほうが悪いとも考えられます。だって、そうでしょうよ。お金をだんまり持っていて、ちっとも苦しめないのに、「どうか、もっともっとお金をください」と願うのは、まさに欲げけです。それよりは、生活が苦しくなると、神仏の助力をことうほうが、可愛いげがあります。

つまり、苦しい時の神頼みは身勝手ですが、苦しむ時の神頼みは欲げけです。苦しむ時も、苦しむ時も、神頼みはいけないのです。では、いつ、神頼みをすればいいのだ……?! ということになり、結論的に言えば、神頼みそのものがいけないのです。わたしはそう思っています。

＊ ＊ ＊

神頼みがよくないとすれば、神仏

に祈る理由は何ですか？

それは、「ありがとうございます」の、

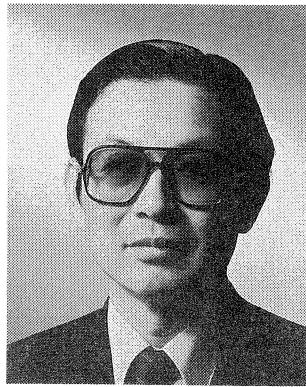
——感謝の祈り——

です。わたしは、それを「領収証的祈り」と呼んでいます。ほとけの加護をうけて、毎日、わたしたちが生かされてもらっている、そのことに感謝をするのが、仏教の祈りです。

一方、ああしてくださいます、こうしてくださいと、神仏に注文するのは、わたしはそれを「請求書の祈り」と呼んでいます。

日本人はどうやら、「請求書の祈り」ばかりをしています。でも、そんなふうには願いごとばかりしていると、毎日が不満だらけになってしまいます。欲を言えばきりがありません。欲望はどこまでもふくらんで行きます。そして、ついにはパンクします。

わたしたちは、感謝のころをもつべきです。感謝の気持ちが出てくると、現在のうちに幸福を見つけることができます。「現在」を大事にするのが、仏教の、そしてまた禅の教えなのです。



特別寄稿 領収証的祈り

ひろのちや



ミニ禅をきく会

鳥取市

第二回禅をきく会余韻

鳥取県宗務所長 橘 栄春

さきに宗報誌上に発表されたように昨年十月二十二日鳥取市に於て第二回禅をきく会が管区教化センターと鳥取県宗務所の共催で講師にひろのちや先生をお迎えして開かれた。梅花県奉詠大会では千名を超す講員を集めた実績はあるが、この種の会で果して会場を埋める事ができるだろうかこの点最も苦慮したところである。

再三の打ち合わせで檀信徒地方研修を併設する事に決定。当日は会場の県社会教育福祉会館に一時間前に到着。

祈るような気持ちで開会を待つ。前晩から宿泊の所員の指導で、梅花

服に絡子姿の地元寺族会、曹青が夫々玄関、舞台、駐車場、及び会場等配置につき、舞台では司会を中心に綿密な打ち合わせリハーサルがあつて、つくづく大衆の精神力に合掌する。そうこうする内に県下各地よりバス、自家用車、汽車で到着。ロビーは人で埋る。予め準備された五百の資料は瞬時になくなる。会場は補助椅子を通路にまで出す程で満員である。講師のお話は平易でわかり易く、具体的に日常生活に言及し、ユーモアをまじえて説き去り説き来って聴衆の共感をよんだ。次で統監老師の解説指導で椅子坐禅を実修す。正面無台の老師、宗侶、その他寺

族、参禅会員の坐禅がスポットライトに浮かび上り会場に静寂の時が流れる。十分後大開静により終了。未だ余韻の残る会場は去り難く、人々は満ち足りた気持ちで県下各地に散った。資料と共に配布したアンケートには「今後は是非開催して欲しい」「講師のお話がよく理解できた」等の意見が多く、日頃の本山研修、担信徒研修とは異質の反応が読み取れる。我々は無意識に専門語を使つての法話が多く、担信徒に理解させる努力が不足だと講師のわかり易い話を聞いて反省した。深山の古刹を思はせるような鳴しもの、巖の如く端坐の老師の姿等、視覚や聴覚に訴える坐禅への誘いも新鮮だった。坐禅したい者は寺へ来いと言つても人は来ない。新宗教のあの積極的な姿勢を見るまでもなく、坐禅の中にも伽藍から街頭に出る坐禅があつてもいいではないか。その意味から一人でも坐禅に興味を持ってくれたことの椅子坐禅の催しは成功だった。今回は人集めに心を労して、県下二百ヶ寺檀信徒の研修を併設した。お蔭で会場を一杯にする事はできたが、その殆どが平日と云うこともあつて主に檀信徒であり年配の方々であつた。最も来て欲しい、話を聞いてもらいたい、椅子坐禅を経験して欲しい青



年達の姿は僅かであった。勿論我々の努力も至らなかつたが、何か彼らの好奇心を刺激し、意欲をかり立てるものに欠けて居たではなからうか。どうせ現代の若者は禅など関心は無からうと速断してはならぬ。書店には宗教関係の本が並び、わけても禅に関する本はよく売れるという。本屋まで来ているオカルト霊界に現世利益に熱心な若者の足を寺まで運ばせるにはどうしたらよいか。かかる意味からも不特定多数の人に禅をきかす今回の試みの最大の反省点だと痛感している。責任を果した安堵感と一抹淡い悔恨の昨今である。おわりにこの度の企画、ご指導をいただいた教化センターの統監老師及び職員各位、初中後ご配慮ご支援下さつた各教区長老師、宗侶、寺族の方々、下座行にご加担の曹青、護持会役員等の各位に紙上より厚く謝意を表します。

利用の手引



一、申請の種類

申し込みの受付に、二種類の区別があります。

1、派遣

教化センターの年間布教計画に基づく行事と、宗門の公的機関(管区・宗務所・教区)等を通じての申請がなされた場合を原則とします。

この場合の布教師・講師・伝道車・布教員の旅費と弁当代がセンターより支給されます。但し宿泊の必要ない場合は、申請者又は教場主の負担となります。

2、特請

派遣以外の私的な要請によりセンターから布教師・講師・伝道車を出張させる場合を原則とします。この場合は一切の費用を申請者又は教場主に負担して頂きます。

但し、二ヶ月以内に申請が出され派遣としての申請する意向の有った

時は、派遣扱いとします。

※ 日曜日・祭日に企画した行事は、センターでも派遣の都合がつきにくいので三ヶ月以上の余裕を以って申請下さる様お願い致します。

二、派遣布教師・講師に対する謝礼について

当センターの運営委員会(各宗務所長が組織する)に於いて決定する。内規である。

謝礼

教場主 適当額の謝礼をする。

センター 宗務所の規定によって旅費実費、弁当代を支給する。

但し、年度ごとに運営委員会で検討を重ねてゆく。

※ 特請については規定をしない。

第二回島根県布教講習会開催される

島根県第一宗務所と第二宗務所と中国管区教化センター共催で、第二回島根県布教講習会が、簸川郡湖陵庄で三月八日・九日の両日開催された。

生憎中国地方には大雪注意報が発令され、受講生の足が心配されたが、熱心な宗侶四十二人が参集した。十三時開講式に続いて長岡教化センター統監が臓器移植を含めた生と死の諸問題について講話をし、両宗務所から計八名が代表で布教実演し、浄土真宗本願寺派の鈴木恭之明願寺住職がビハハラについて講演をした。

長岡統監は平成元年巳年にちなみ物より心への脱皮から初めて、人は皆、一度は死なねばならぬことは、よく知っているが、それは知識の上で知っているだけで、切実な問題として常に知っているのではない。こうした中で死を問題にする場合、

①命がけという言葉に見られるような、特に宗教と関わりなく死を考える心境 ②武士道の精神や極楽往生の信仰に見られるような、ある種の信仰、信念によって死を恐れない心境 ③生に執着せず死に親しみ死を

迎える心境の三つの立場について述べ。又、日本の臓器移植に対する批判的な意見があるのは、仏教的フアクターでなく迷信的な民族文化のフアクターがその因をなしている等の内容を語った。

続いて布教実演が行なわれた。実演後、長岡統監、樋谷宗務所長、島田弘文管区布教師による講評が行なわれ、「身近な話で親しみやすかった」「与えられた時間を厳守することが布教の原点」「時代感覚によるユニークな内容を」「説得よりも相手に感銘を与える」等々の助言があった。

最後の鈴木講師は「ビハハラについて」と題して講演。現代医学は死への挑戦という立場から、単に物質的治療のみでなく、人格的配慮を伴う医師と患者の関係が大切と提言し、医王如来と呼ばれた忍性が布教手段ではなく、病人には分け隔てなく治療を施したエピソードを紹介。又、ビハハラとは「安息をもたらす行為」の意味で、ターミナルケアと呼ばれるような末期患者のみを対象とするものではなく、家族、医者、

管区布教師名簿

広島 23	宮田 玄洞	阿弥陀寺	〒725-02	豊田郡東野町2276	☎08466-5-2061
広島 162	高原 一如	徳雲寺	〒729-54	比婆郡東城町菅	☎08477-4-0534
山口 222	清成 昭典	海晏寺	〒750	下関市伊崎町1-4-12	☎0832-22-0662
山口 238	松原 徹心	光善寺	〒755	宇部市西琴芝2-1-46	☎0836-21-5465
鳥取 30	磯江 太禅	長通寺	〒680-01	岩見郡国府町岡益285	☎0857-24-7755
鳥取 40	徳田 金城	浄源寺	〒680-14	鳥取市上原271	☎0857-56-0417
島根 I 320	島田 弘文	興海寺	〒699-56	鹿足郡津和野町河端455	☎08567-2-1990
島根 II 3	加藤 修峰	洞正院	〒692	安来市安来町1460	☎08542-2-2657
島根 II 61	伊東 充光	法眼寺	〒690	松江市外中原町141	☎0852-21-6573

伝道句集

「布施」

1. 布施するものは福を得
2. 石を投げられ
3. 無縁仏への供養とトイレの掃除は最高の陰徳を作る。
4. 慈心あるものは怨みを得ず
4. わが恩をただにて返す人あれば
5. 善を愛するものは悪を銷し
5. 自分では何一つ出来ないと思っている人でも
6. 欲を離るるものは悩みなし。
6. 他人の幸福は祈ることは出来る。
7. 石を投げられ
7. 花を見てよろこぶよりも
8. 棒で打たれても
8. 花を咲かせて人を飲ばせたい。
9. それでも叩きまわらない
9. 橋のない川に舟をおき
10. あなたの胸の奥にある
10. 日常のくらしや仕事も
11. ひかりかがやく仏さま。
11. そのまま布施の行である。

(長阿含経)

(田中慶道)

(法華経常不軽菩薩品)

私の想い出

山口市吉敷

玄濟寺東堂

初代主監 蔵重 鉄州

私は九州管区駐在布教につき、センター設置と同時に、九州管区教化センター主監の任命を受けたのが昭和四十七年七月五日付でしたが、中国四国管区センター設置と同時に昭和四十八年十一月一日付で広島にまいりました。

当時は広島市戸坂の禅昌寺でした。統監・田中弘道老師、主監小生、參與横山正賢師、贊事檀上尚道師でありました。後に山内悦史師も贊事になられました。九州で一年三ヶ月のセンター経験はありましたものの駐在布教師のつづきの様な事で布教に出かける事が主だったですが広島に来てみすと、ただ説教に出歩くのではセンター設置の意味はない、特に主監は地方で云う主事である云々と横山師よりも気合を入れられ深く

特に山間僻地の地区を中国、四国共に農繁期の慰問野外辻説法、夜の映画伝道とよく走りまわりました、楽しい思い出が沢山あります。今後のセンターの活動を祈りつつ……。

不完

広島県豊田郡

阿弥陀寺住職

宮田 玄洞

主監の任を解かれて早くも五年の歳月が流れ、無常迅速の厳しさを痛感します。自利的修学と、他利的教化に対する意欲が要求される、宗門教化の役割りをどれ程果せるか、自問自答しながら、夢中で過ぎ去った三期六年でした。その間ご指導いただいた管区内諸老師のご尊顔温容を想いおこし、ご道愛の深さを有難くかみしめております。

現代のすべてが、高度に専門化する方向の中で、多様な要求に対応するため、本部布教の要旨を徹底実践その実を揚げるために、教化センターが組織化されている。この重責を肌を感じながら、迷路を模索する思いで、ただ動き回ったように思えます。

高知県には排仏毀釈で八ヶ寺が合併、八王山と山号がついている寺もあり、神道の影響でお米を供えるよ

ば、こうした真実性を深く見直すことが大切と、その教化的意義を改めて感じながら、法縁を喜ばせていただいたことを、有難く思いおこしております。

十五周年が契機となり宗風宣揚のセンターとして、益々その機能が発揮されるよう心からお祈りしつつ筆いたします。

広島市東区

禅昌寺住職

横山 正賢

昭和四十六年より四十七年に掛けて私は毎月上京して、永平寺清規を講本にしたある勉強会に参加しておりました。

その度に永平寺東京別院の同心寮に拝宿し、当時の山田宗務総長を始め金子帰山教化部長その他の内局の方々と食事を共にしながら、当時三十四才の理想に燃えておりました私は、宗門のあるべき姿を生意気にも忌憚なく話させて頂いておりました。

当時都市では開発が進み農村では過疎化が進み、過疎過密の国家的対策が深刻化する中で、宗門の布教化においてもその対策が望まれている

うに抹香を蒔いたり、供養のお祈りについても、お経中は縁側で仏壇に背を向けて日向ぼっこをしたり、隣寺が遠く、年中行事の法要も住職一人でのおつとめ、信じられないような想像を絶する苦境の中で、教化に専念されている、そんなお寺に伝道車で赴いた時、喜色満面を迎えて下さったご住職のお姿が今尚脳裡に焼きついていきます。一端教化力を失うとその回復は、容易ならぬことを思い知らされたものでした。

儀式が清規を逸脱し、教学教化性を失い、大衆の信頼性を失いつつあることから、当時青年会の研修意欲が盛んで中国山地を横断しての参加青年会諸師の道心に満ちた集いは、宗門の明るい未来を感じさせるものがありました。

時恰も総授戒運動に入った時で、授戒は、出家在家の対立を超えた、聖俗不二の教化の場として真剣に取り組み「授戒会のしおり」を発刊、研修にも意を注いだことだった。会中の加行、端坐、合掌、礼拝と綿密の行持そのものが教化であり、喫茶喫飯、行住坐臥すべてが「一行に遇うては一行を修し、一法に遇うては一法を行す」そのものの実践であり、瑩山清規に示された出班焼香の原点にしても、孝順心の清規化だとすれば、

る時でした。そんな中で宗門では老朽化した宗務庁を十億円建て替えてテナントビルかホテルを併設して収益を上げ教化費を捻出すると言う計画が進められていたのです。この計画に対して「教化宗団としてはもっと考えるべきではないか」などと論議をさせて頂く中で、十億円の予算を使うのであれば宗務庁は二、三億円で建て替えて従来の宗務庁機能に留め、後は全国九管区の過密地帯に教化センターを設ける費用に当てて、

過疎地の有能な人材を職員に置き、農村から都市に出た宗門の檀信徒は教化センターにおいてお世話が出来るとの様なシステムを作り、農村寺院とのパイプ役を果たせる機能を持ち一方都市教化の総合的(幼稚園、禅道場、御詠歌等一般教化活動)教化センターを設けてはと提案を致しましたところ、その場で山田宗務総長より「教化部長教化センター構想は良いのではないか、考えてみてはどうか」となったのですが、実際に開設された教化センターは私の提案したセンターの機能とは、凡そかけ離れたもので職員間の考えの相違も大きく時代感覚を満ちたセンター構想の難しさを感じたものでした。

「私が云うッではないンですよ、総長が必ず、檀上にそう伝えておけると云われるモンですから……。」と、申し訳なきように口ごもり乍ら、酒々だけは注意するようにとの伝言をして下さったのが、当時の教化部長故小形大禅老師、発足当初のセンター役員が、初めて天寧寺へ召集された時の第一声であった。その時、初代統監、故田中弘道老師、主監、蔵重鉄州老師、共に心中快哉を叫ばれたとは、後日談。もちろん、お二方共、大のお酒好き、よくもまあ、本当に揃いも揃ったものである。

爾来、会議の度毎、否、統監老師が事務所へお越しになられる、その都度、持参の「超群」で、談論風発、センターのあり方、管区との連繫、各宗務所との連絡等々、熱心に参究に参究を重ねたものである。当時、「センター運営基準」にもない仮称「総合企画委員会」なるものを、各宗務所長より推薦の卓越の師に委員を委嘱して構成し、文字通

りの試行錯誤の中から、「禅の文化を聞く会」「新入社員研修会」という、発足間もないセンターとしては画期的な行事の二本の柱が、この総合企画委員会によって確立されたことを特筆しておきたい。その後、「青少年指導者講習会」「布教師協議会・布教講習会」「伝道車巡回布教」等々、年々、事業も充実、発展を遂げ、現在では役員の方々の努力で「洋上セミナー」「禅を聞く会」といった素晴らしい活動が展開されている事を、非常に嬉しく又、頼もしく思っている昨今で本当に、発足当初の暗中模索の時代を思うにつけ、まさに、感無量である。思えば、この総合企画委員会は、今次第六十四次議会で、教化センター規程制定案が上程、成立可決をみた、その中、第七条ノ二に、企画委員会として規定され、まさに十五年の陣痛を経て日の目をみたが、当センターにかつて時かれた種子であった事を思い感慨一入である。発足以来十年に余ってセンターに奉職させていただき、センターで育てていただいた私の報恩行は、即今只今からだど覚悟も新たに精進したい。もちろん、酒々にくれぐれも注意しながらである。

豊田郡瀬戸田町

吉祥寺住職

檀上 尚道

「私が云うッではないンですよ、総長が必ず、檀上にそう伝えておけると云われるモンですから……。」と、申し訳なきように口ごもり乍ら、酒々だけは注意するようにとの伝言をして下さったのが、当時の教化部長故小形大禅老師、発足当初のセンター役員が、初めて天寧寺へ召集された時の第一声であった。その時、初代統監、故田中弘道老師、主監、蔵重鉄州老師、共に心中快哉を叫ばれたとは、後日談。もちろん、お二方共、大のお酒好き、よくもまあ、本当に揃いも揃ったものである。

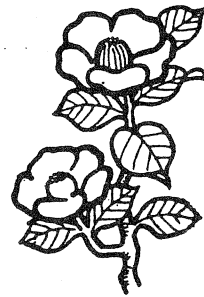
島根県出雲市 浜村 正憲 11

ぼくは、これまで意味も分らないのに「いただきます」とか言っていました。でもその意味などが分かってきました。それに作法も身につけました。今では、もうスリッパでも、ちゃんと整とんするようになりました。

この洋上セミナーで学んだことを家以外の所だけきちんとせず、家でもいつも、ここで学んだ作法を使いたいのです。

それと、仏壇をこれまで、おばあさんだけがおがんでおられたけど、ぼくもおばあさんといっしょに仏壇に手を合わせ、ご先祖様を大事にしたいです。

この洋上セミナーで学んだことを家で、きちんと身につけて、いい一日をすごしていきたいです。



第4回 洋上セミナー

子供禅のつとめ 隠岐



島根県簸川郡 加納 三香子 12

私は、洋上セミナーに参加しました。三日の中でたくさんさんの思い出ができました。特に坐禅です。

一日目は、少し足がいたかったけれど二日目になるといたくなくなりました。家では、坐禅をしないけれど、心が落ち着いて良かったです。しせいも良くなり、心の方もきちんとしたような気がしました。

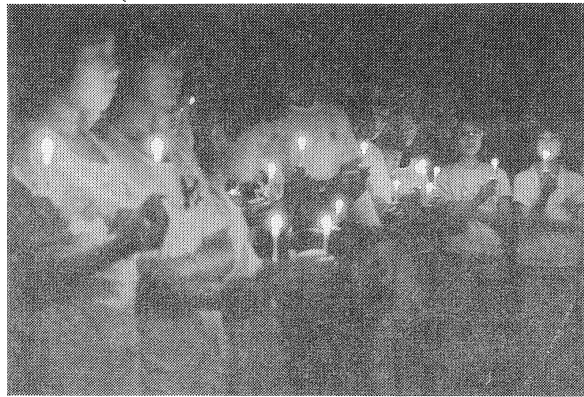
それと、いろいろな先生方の話などです。食事の時の話や、手品、人形げきなどでした。楽しいこともありますが、少し少しくるしい事もありました。でも、それは、自分のためなのです。

たくさんさんの思い出も出ましたし、いろいろ勉強になりました。



昭和六十三年洋上セミナー

あしあと より



島根第一宗務所 海雲寺 城市 知幸

昨年曹洞宗島根第一宗務所主催の徒弟研修に参加して、我が六年生の愚息は何かを感じ得る事があって、今年、是非第四回洋上セミナーに参加したいと申し出て来たので快くOKを出し、スポーツ少年団々員にも声掛けたところ予想に反して、二十三名の参加希望を受け参加させていただきました。

島根県に暮らしておりながら隠岐へは出掛ける機会に恵まれる事は稀有な事でありませう。いろいろな家庭から参加して来た子供であり、この

様な経験をした事はなく、興味半分で参加して来た子供は何人かは居た事でしょう。

物の豊富な時代は、心が貧しくなるといわれている様に、食事一つにしてもそれぞれの家庭で異なった作法で食べている訳で、特にセミナー中食事作法については良い経験をしてくれた事と思います。

参加者の中で一人でも参加して来た意義を一日でも長く持ち続けてくれる事を祈念しているのは私一人だけでない事でしょう。

我が愚息二人も、この思い出を胸に来年もきつと参加したいと云っている今日この頃です。

島根県第二宗務所教化主事 浄行寺 伊藤 皓元

第四回洋上セミナー子ども禅の集いは、島根県隠岐で行われました。諸老師の協力と努力で定員オーバーするほどの人が集まり、事故もなく無事終了することが出来、地元宗務所担当主事として衷心から感謝しています。

諸行事を開催する際、気がかりなのは「人集め」です。教化センターから依頼を受けた時、即座に、山陰に人が集まるだろうか。地元で何人参加してくれるのか」という懸念が頭を過ぎりました。

先ず、師寮寺の檀家にチラシを配



キャンドルサービス

坐禅

隠岐の島

りました。それによる参加は一名でした。地方新聞の一面広告欄に掲載してもらいましたが反応はゼロでした。私の関係で最も効果的だったのは、小学校高学年のいる家庭を回ったことでした。子どもに直接話し、親にも説明する。しばらくすると、親の理解が得られ、参加希望の子どもが友達を誘ってくれたのです。今回の「人集め」で感じたことは一、情報過多の時代で、情報を流しただけでは効果が薄い。二、優れた企画であれば、現代の親は子どものために金をだし協力してくれる。この二点でした。

今年度よりセンター計画により仏教婦人会中国大会を六十三年九月二十六日(二十七日)に山口県宗務所の協力で光市大楽寺に於いて開催されました。参加者は百五十名でした。百五十名の内訳は百十名が一般婦人、四十名は一般婦人会の参加で一般婦人会は阿部先生の講演を聞くだけです。全国の婦人会長さんも御来席されお祝辞をのべられました。

初日はセンターの統監長岡老師の講演「合掌礼拝」についてお話しを聞きました。その後武田薬品工業株式会社を見学し薬品に対する認識をより一層高める事が出来ました。夕食後本庁から門馬先生の同和問題のお話しを聞き映画等で研修しました。その後四班に別れて班別研修会を実施する。

翌朝は六時に起床し、坐禅、朝課をおつとめし、大楽寺婦人会の会員及び教区の寺族の方々に朝食を作って頂き暖かい朝食をいただきました。朝食後婦人会常任講師の阿部圭佑老師の講演を二時間半お聞きし、十時三十分より、昨晚の班別研修会の内容を班長さんから発表され活発な意見交換が持たれました。十二時に閉会式が行われ昼食後解散となりました。仏教婦人会も寺族が相談役となり、檀信徒の皆さま方で運営し、研修会を実施される事が望ましいと思

います。現在の日本では自分のほいものは、お金さえ出せば求められます。その反面、心が減っているのではないのでしょうか。お互い助け合いの精神が欠け、自分さえ良ければそれで良い、他人の事はおかまいなしという人が多いのです。

仏教婦人会は自分の精神を養い教養を身につけようというのが目的だと思います。仏教の言葉に和顔愛語と云う言葉があります。和顔とは「和やかな顔」です。愛語とは「心のこもった言葉」です。どんなに仲の良い家庭でも時には気まずい思いのひとときもありましよう。そんな時、誰かの和顔が誰かの愛語が、円満家族を取り戻します。家庭でも社会でも和顔愛語を持ちたいものです。

お互いの教養を高めるため、各県の仏教婦人会の会員の増員と増々発展する事を願いつつ山口大会の感想を書かさせて頂きました。

山口県宗務所 青木 源裕
教化主事

曹洞宗婦人会 中国管区研修会 山口大会を開催して

九月廿六・七日の秋日和。駅より程近い木の香も高い新築大楽寺様を会場に百五十名の参加を得開催される。センター統監長岡老師には、「豊かな物の中で忘れられた心、貧しい心を見つめて『脚下照願』いやな事は忘れさわやかな美しい合掌をして生きよう」と。このあと武田薬品工場へ。命を救う薬品工場の見えない大きな力をひしひしと感ずる。場内の薬草園散策。幾百種の身近き薬草瀬戸内は秋陽の中を女ら歩む。その足で保養センターで薬石。入浴。夜「五十年の沈黙」と題する同和研修の映画観賞。父親の「我々が他の人と何の変わりがあるか」の一言に中学生の娘が目覚め家族が明るさを取り戻してゆく。特に父親の態度に感動する。分散会は四班に分かれ「明るい家庭づくり」をテーマに活発な意見が交換される。翌朝常任講師阿部先生には、「人間は勝手なものであるから生かされている自分に気づきあらゆる命に感謝し謙遜なる自覚のもとに忠告を聞き坐折感を味はひそれを持ち越えてさわやかな合掌礼拝の生活を送らねば」と。講演は感銘深く拝聴する。全体会議では、「脚下照願」の質問に対し、統監より「一日を反省し、明日への希望をもち、なりふりを反省しましょう。」との結び。重ねて、習慣が違う所からのお嫁さんがお寺の家庭づくりと思うが辛棒し、馴染み、婦人会は社会事業であるから、心の底に置いて活動して欲しいとの願ひ。この管区も年毎に多数の方々の参加を載き、充実しつつある事は、これ一重に皆々様のお力添えの賜です。さて、正しい信仰に目覚め明るい家庭づくりを目指す婦人会も、この研修会を御縁に、今年度よりセンターとのかわりあいの中で成果をあげるべく、未結成寺院の参加をお待ちして、信仰の輪が又一つ大きく展開せん事を念ずるものです。

ゆき届いた御接待に感じ入り、盛り上りのうち再会を約し乍ら、散会しそれぞれの御立場で御協力下さいました御寺院様に改めて御礼申し上げます。

・炎立つ曼珠沙華野辺にあかあかと車窓に見つゝ何処に続く。純穂

常任理事 伊東美智子
合掌

佛事の豆智識

塔婆

塔婆、又は卒都婆ともいいますが葬式、年回法要などでお墓に立てる戒名などを書いた細長い板のことです。

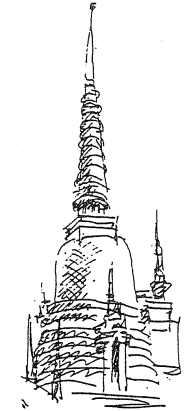
卒都婆とは、サンスクリット語の「ストウーバ」パーリー語では「トウバ」を漢字で写したもので、ストウバとは、インドにおいて、土まじゅう型に土を盛り上げてつくった塚のことです。

は現在のお墓である石塔へと広まっています。現在の日本では自分のほいものは、お金さえ出せば求められます。その反面、心が減っているのではないのでしょうか。お互い助け合いの精神が欠け、自分さえ良ければそれで良い、他人の事はおかまいなしという人が多いのです。

仏教婦人会は自分の精神を養い教養を身につけようというのが目的だと思います。仏教の言葉に和顔愛語と云う言葉があります。和顔とは「和やかな顔」です。愛語とは「心のこもった言葉」です。どんなに仲の良い家庭でも時には気まずい思いのひとときもありましよう。そんな時、誰かの和顔が誰かの愛語が、円満家族を取り戻します。家庭でも社会でも和顔愛語を持ちたいものです。

お互いの教養を高めるため、各県の仏教婦人会の会員の増員と増々発展する事を願いつつ山口大会の感想を書かさせて頂きました。

山口県宗務所 青木 源裕
教化主事



昔お釈迦さまがクシナガラでお亡くなりになったとき、その遺骨を八つに分け、当時インドにあった八つの国でそれぞれ仏舍利塔を建てて供養したということです。このように塔を建てて遺骨を供養する風習は、その後もインドで行なわれ、仏教の伝播に従って、南方諸国や中央アジア、中国、朝鮮、日本にも伝わってきました。

大寺院にある五重塔、三重塔などもこうした風習から建てられたものであり、五輪塔、宝篋印塔、さらに

このように塔の建立は、仏法の護持につながる大きな功德があるというので追善供養の法要に際しては、功德を故人にめぐらす意味で板塔婆を建てるようになりました。

宗務所より「管区教化センターの集中伝道」がある旨の通知を受けたのが、一ヶ月前の四月初旬。事前にその経緯・内容が知らされていなかっただけに、正直言って唐突な感が免れなかった。

当教区は一市五郡で構成されていて、ちょっとそのことで相談というわけにもいかない。幸い教区内で開山忌が修行されたので、その場で希望を募ったが、急な話に加え日程が決まっていることもあって希望の寺はなく、結局実施方法その他は教区長一任ということになった。

そこで対象内容をいかなるものにしたものかと思案していると、県婦人会長でもある愚妻が岡山県は婦人会活動が低調なので、この際は対象を婦人という提言があった。言われてみると、梅花流講習を除けば、教区護持会にしても同和研修にしても出席はほとんど男性ばかりである。早速教区寺院に婦人三名以上の参加を要請。初めての試みとしては上々の七十余名という盛会であった。

岡山県集中伝道

千光寺住職

早川石峯

当日は会場主であったため統監老師の法話「明るい生活と仏陀の教え」は、一部始終拝聴はできなかったが、今日の社会問題化している家庭のあり方、特にその中に仏の教えをどう生かすかという婦人にはふさわしい内容であったように記憶している。

統監老師の平易でかつ明快な話しぶりと相まって聴衆は終始熱心に耳を傾けていた。引き続き映画「一輪の花」の上映となったが、これまた皆様に感銘を受け満足していた。

当初婦人動員に当惑していた寺院方からもいい企画だったと思わぬお誉めのことばもいただき、各寺の婦人会の活性化あるいは結成の一助にと位置付けた当教区の集中伝道は、一応の成果はあったと確信している。

そして帰り際、「ぜひ将来は教区で曹洞宗檀信徒大会を」といわれた統監老師のことばに今回の集中伝道の本当のねらいがあったように今は思われてならない。

第5回親子ゼンインサマーセミナー

日時 平成元年7月25日(火)～27日(木)
場所 山口県萩市 楽天地
主催 中国管区・中国管区教化センター
講師 お話 ひろさちや先生(宗教評論家)
ゲーム 渡辺法子先生(母と子の体操あそび研究会主任)
歌唱指導 長野隆史先生(元五つの赤い風船)
人形劇団 ぎ・だんま
定員 200名(定員になり次第締め切ります)
備考 出来るだけ親子参加を希望します。子供さんだけの参加も結構です。指導員が責任をもってお世話します。

管区内報恩集中伝道

日時 平成元年5月9日(火)～18日(木)
教場 各宗務所 2会場
内容 法話並びに映画

15周年記念式典

日時 平成元年10月23日(月)
14時 開会・式典
15時 記念講演
17時半 レセプション
会場 広島県福山市
福山キャスルホテル
(0849) 25-2111
講師 未定

禅を聞く会

お話と椅子坐禅

日時 平成元年11月2日(木)
場所 広島市大手町1丁目5-3
広島県民文化センター
(082) 245-2311
主催 曹洞宗宗務庁
講師 新居浜市 瑞応寺住職 檜崎一光老師
佐渡ヶ嶽親方(元横綱琴桜)

フィルムライブラリー

◎フィルム貸出について
教化センターの活動に支障のない場合に限り貸出します。使用料は無料とします。貸出し期間はそのつど、検討し決定します。尚、損傷した場合はセンターの指示に従っていただきます。申込は、センターまで申請書を御提出ください。お急ぎの際はハガキか、電話でも結構です。

- 16ミリフィルムライブラリー
(二巻)
禅のいのち 26分
禅と共に 24分
スポーツと禅 24分
禅はそこにある 24分
禅のころ(モノクロ) 24分
禅と自然と日本人 26分
光の中に 26分
ともいきのよろこび 27分
石と信仰 22分
道元禅師とともに 25分
禅の光り 28分
食(じき) 32分
永平寺に生きる 35分
一輪の花 42分
剣と禅 13分
曹洞宗宗務庁 30分
明日を拓く理念(駒澤大学) 33分

- 道元禅師(いのち) 20分
禅尼僧の修行 45分
きつな 32分
明日の太陽 45分
太陽の涙(石の証言) 49分
(青少年・一般)
素敵なお母さん 29分
あたたかい心ありがとう 30分
(児童劇映画)
お兄ちゃんと僕の七転八起き 45分
(児童アニメ)
一球さんこの一球に悔なし 30分
アラジンと不思議なランプ 10分
ジャックと豆の木 10分
テレパスクマール 25分
おぼ捨て山の月 21分
ごんぎつね 21分
お百姓さんの足坊さんの足 22分
雪舟(偉人物語) 11分
キユーリー夫人(偉人物語) 15分
福沢諭吉(偉人物語) 11分
まりかの祈り 30分
オートスライドライブラリー
(一般)
大本山永平寺 20分
大本山総持寺 17分
道元禅師さま 12分
瑩山禅師様 12分
孤雲懐奘禅師のご生涯 17分
孤雲懐奘禅師七百回大遠忌にむけて 14分
明日への道を拓く 14分

- 曹洞宗の未来を開く宗務庁 18分
受戒 30分
お葬式のエチケット 11分
仏様の履歴書 16分
あなたの力で曹洞宗の明日を 16分
法とは人なり 27分
石のほとけ 15分
水子地蔵 15分
修証義の世界 25分
私達のお寺の宗旨は 12分
誰にでもできる坐禅の仕方 10分
鉄条網の子供達 25分
仏壇のまつり方 20分
授戒会のすすめ 20分
御先祖 15分
(一般・児童)
子供禅の集い 14分
お盆とお施餓鬼 11分
(児童)
おしやかさま 13分
よくばりめんどり 14分
花まつり 17分
成道会・スジャータの供養 17分
涅槃会・お釈迦様の思いやり 15分
★道元寸草争頂
使用報告書は映写後、必ず記入して下さい。フィルムは映写機の使用法を十分に心得た方が取扱つようお願いいたします。フィルムが切れたり、傷のついた場合はその箇所を明示して御返送下さい。

教化センター平成元年度事業計画

- 一、 教化センター便り第5号発刊 (四月)
- 二、 企画・総合企画委員会 (四月)
- 三、 全国センター職員中央協議会 (四月)
- 四、 中国管区集会 (四月)
- 五、 管区内集中伝道 (五月)
- 六、 管区布教師連絡協議会 (五月)
- 七、 親子ゼンインサマーセミナー役員会 (五月)
- 八、 管区内青少年教化指導者研修会 (六月)
- 九、 第五回親子ゼンインサマーセミナー (七月)
- 十、 中国管区布教師協議会・講習会 (八月)
- 十一、 中国管区曹洞宗婦人会研修会 (十月)
- 十二、 十五周年記念式典・講演・レセプション (十月)
- 十三、 禅を聞く会 (十一月)
- 十四、 センター企画・総合企画委員会 (十一月)
- 十五、 管内宗務所・センター職員連絡協議会 (十二月)
- 十六、 全国教化センター職員連絡協議会 (十二月)
- 十七、 教化センター便り編集会議 (一月)
- 十八、 センター運営委員会 (二月)
- 十九、 布教師養成講習会(島Ⅰ・島Ⅱ) (三月)

セ ン タ ー 役 職 員				
統監	長岡徹宗	善昌寺内	〒729-34 甲奴郡上下町上下341	☎ 084762 -3054
主監	用元一雄	長光寺	〒722-24 豊田郡瀬戸田町垂水830	☎ 08452 7-2467
賛事	村上邦雄	摩訶衍寺内	〒722-01 尾道市原田町梶山田4338	☎ 0848 38-0656 ☎ (連) 0849 53-9153
賛事	飯島孝文	長福寺内	〒722-22 因島市中庄町3273	☎ 08452 4-0391

雑記

▲激動の「昭和」が終り、新しい年号が「平成」となった。昭和という時代をふり返える時、経済の高度成長と戦争のイメージではなからうか新年号「平成」の文字通り平和で明るい社会、延いては世界の実現を心から願うものである。

▲中国管区教化センターが開所されたからお陰様で本年十五周年を迎えることが出来た。管区はじめ各宗務所、そして各御寺院様の御理解と御協力の賜と衷心より感謝します。

▲好評をいただいている「洋上セミナー」子ども禅のつどいは今年第五回目を山口県萩市で開催する。昨年第四回を島根県隠岐で開催したが、地元島根県第一宗務所の全面的御協力のお陰で大成功を収めた。今年も地元山口宗務所はじめ関係者各位の御協力で、子どもたちの心にのこる集いにしたいものである。

▲曹洞宗が主催する「禅をきく会」は今年から中国・四国管区が加わり全管区開催となった。中国管区では十一月二日(木)広島市内の県民文化センターで、講師に瑞応寺専門僧堂堂長檜崎一光老師、佐渡ヶ嶽親方(元横綱琴桜)を迎えて開催される。今年も皆様の御指導と御鞭撻のほどを節に願います。